

就業技術科を有する特別支援学校について

特別支援学校に関する基礎的研究 その2

On special support education school with department of technology education for employment

- A basic study on special support education schools, Part 2 -

○山崎直之¹, 山岡俊介², 渡辺富雄³○Naoyuki Yamazaki¹, Syunsuke Yamaoka², Tomio Watanabe³

The present report comprises a facility investigation of 5 Special support education schools which have department of technology education for employment.

The layout of each schools and the scale, configuration of the various rooms and plan within are clarified.

Specific two examples are cited to analyze the characteristics of special classrooms.

Keywords; Special support education school, Technology education for employment, Various room configurations, Plan, Special classroom,

1 はじめに

本稿は前稿に引き続き施設調査報告である。

東京都では第一次、第二次、第三次実施計画として特別支援学校の全般的な視点に立って展望を明らかにするための長期計画が実施されている。第一次、第二次実施計画の成果や課題より、これからの都における特別支援教育推進の方向性と具体的取組を示すものとして第三次計画が計画された。第三次実施計画は、東京都の長期計画の基本理念を踏まえ、以下の3つの基本的な考え方に基いて策定している。

- 1) すべての学校で実施する特別支援教育の推進
- 2) つながりを大切にした特別支援教育の推進
- 3) 自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進

2 上記の3つの中でも3)の政策として東京都では「就業技術科」という新たな部門を設けた特別支援学校が5校ある(1校は計画中)。

この計画の理念として、社会的自立を図ることのできる力や地域の一員として生きていける力を培い、共生社会の実現に寄与することがある。そのために教育制度は大きな変革の時を迎えている。それに伴い、学校の建物自体も変化が求められるといえよう。

2 研究目的・方法・対象

2.1 研究の目的

就業技術科は障害を持つ生徒も卒業後就業できるように様々な技術をつけることを目的としている。そのため、一般の高校にはない特別教室がある。本稿の目的は、基礎的な資料としてこれらの諸室内容や学習内容を把握することである。

2.2 調査方法

学校の建築概要を把握するため、学校要覧、リーフレットを収集し、HPや建築雑誌、東京都教育委員会の資料等で確認した。合わせて現地調査と関係者へのヒアリングを行った。調査期間は、2014年8月～9月である。

2.3 調査対象

表1は調査対象施設を示す。東京都の特別支援学校の長期計画における第二次実施計画によって開校された就業技術科を有する特別支援学校である。具体的な諸室構成と平面構成の対象は青峰学園と志村学園の2校とする。

Table 1. Surveyed schools / outline of schools

学校名	永福学園	青峰学園	南大沢学園	志村学園	東部 (計画)
開校年	H19	H21	H22	H25	H27
所在	杉並区	青梅市	八王子市	板橋区	葛飾区
生徒数	394人	143人	295人	244人	—
就労率	96%	98%	96%	(注1)	—
敷地面積	20,519㎡	24,951㎡	13,680㎡	33,548㎡	15,619㎡
延床面積	16,257㎡	13,048㎡	11,872㎡	25,956㎡	25,200㎡
階高	地上4階	地上4階	地上3階	地上3階、 地下1階	地上3階
部門	肢・知	肢・知	知	肢・知	肢・知

注) 志村学園は就業技術科が2学年までしかないため、就労率は不明

3 結果

3.1 ヒアリング調査について

学校関係者へのヒアリングでは以下のような建物関連の意見や要望があった。

- ・教材室の設置数は多く
- ・生徒がクールダウンする小さな部屋の設置
- ・動線は教員の目が届きやすいように直線
- ・中規模で集まれるような空間の確保
- ・プレイルームの充実
- ・生徒増加を想定した十分な教室数の確保
- ・ドア付近の段差をなくすための吊り戸形式の引き戸
- ・スクールバスの駐車場に雨よけの屋根
- ・校庭などを地域開放する想定での校内セキュリティ
- ・重い機材を入れる想定での実習室の配置

3.2 部門別諸室構成と平面構成

図 3 は青峰学園（高校を改修）を示す。

東京都立青峰学園			
所在地	東京都青梅市	開校年	平成 21 年 4 月
生徒数	小:8名 中:3名 高:132名	教員数	84名
学級数	小:4学級 中:1学級 高:15学級	校舎	改修
敷地面積	24,951 m ²	延床面積	13,048 m ²
構造	RC (一部 S)	階層	地上 4 階

知的障害+肢体不自由の併置校

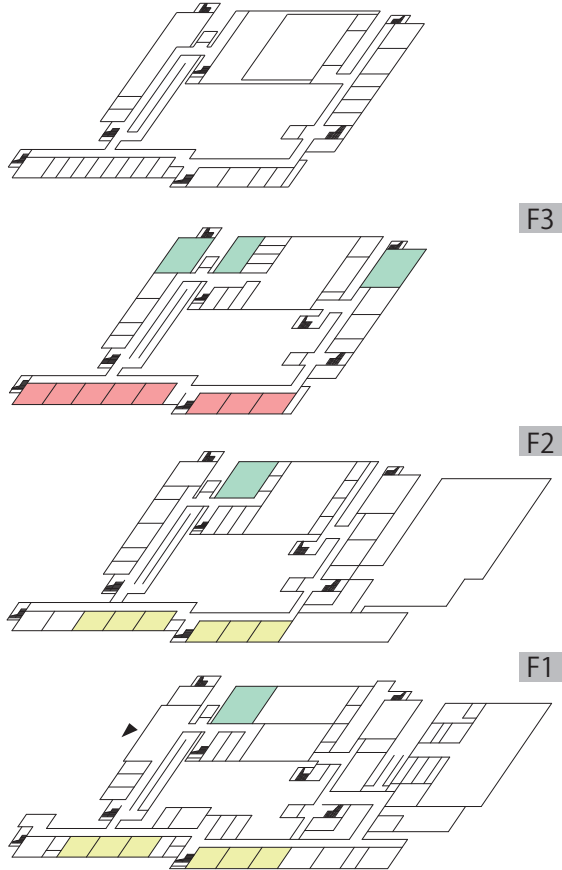


写真1 青峰学園外観

写真2 ビルメンテナンス教室

Fig.1 Seicho Gakuen plan

4 まとめ

- ①特別支援学校では、カーテンで間仕切ることによって多目的な利用に対応することが重要になる。
- ②併置校の場合、障害別にエリアを分けることが重要になる。同じフロアで棟ごとに分ける方法と、階で分ける方法がある。
- ③就業技術科の特別教室では、重い機材や屋外での作業の関連性から 1 階に配置されることが重要になる。

図 4 は志村学園（新築）を示す。

東京都立志村学園			
所在地	東京都板橋区	開校年	平成 25 年 4 月
生徒数	小:33名 中:29名 高:182名	教員数	141名
学級数	小:9学級 中:8学級 高:21学級	校舎	新築
敷地面積	33,548 m ²	延床面積	25,956 m ²
構造	RC (一部 S、SRC)	階層	地上 3 階、地下 1 階

知的障害+肢体不自由の併置校

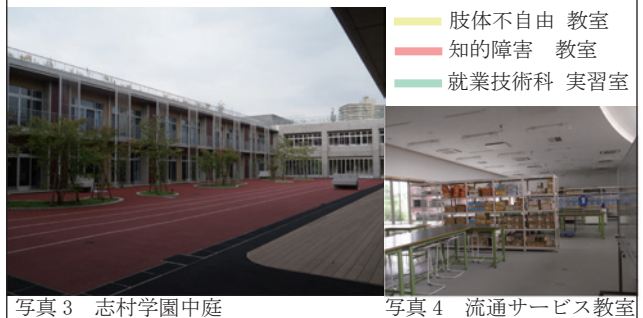
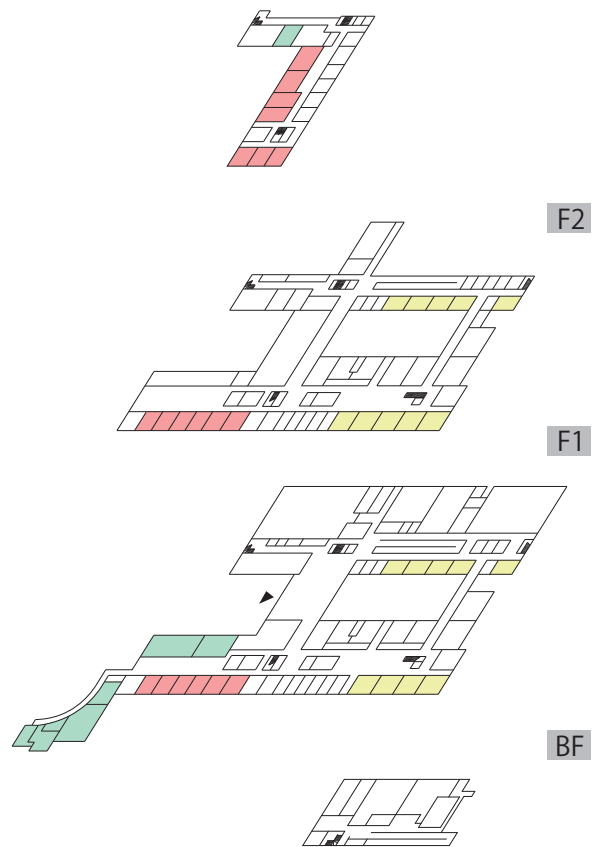


写真3 志村学園中庭

写真4 流通サービス教室

Fig.2 Shimura school plan

参考資料

- i) 各校の学校要覧、H26 (永福、青峰、南大沢、志村)
- ii) 各校のリーフレット、H26 (永福、青峰、南大沢、志村)
- iii) 近代建築、近代建築社、2014.7
- iv) 文部科学省 特別支援学校 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm
- v) 東京都教育委員会 HP
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/gakumu/tokubetsushien/menu.htm>